

# 世界の農業機械・資材トレンド

ヨーロッパの農機実用テストの権威、ドイツ「profi」誌に掲載された世界の農機の最新情報

Direct seeder firm brings a broader choice to the market  
フィンランド

## 不耕起播種機に“幅広い”モデル登場



フィンランドの不耕起播種機メーカーとしてリーディングカンパニーとなっているヴィスカン・メタリ社が、従来品より一段と作業幅を広げたモデルを発表している。同社はこれまでスカンジナビア諸国とバルト海沿岸地域のユーザー向けに、作業幅が3mと4mの播種機と肥料散布機を兼ねたモデルを提供してきた。

今回発表されたVM6000型DS「ブネウマ」は、その作業幅を6mに拡大したモデルだ。不耕起にも慣行にも対応できて、播種の深さはディスク・コルター近くのホイールで調節できるのが特徴である。このディスクが地表の植物残渣もろとも溝を切るようになっており、その荷重を40〜175kgの間で調節できる。播種後はバネのついた別のディスクが土を被せていく。

VM6000型のホッパーは容積8000ℓ、2・6mの高さまで充填可能となっている。これよりも小型で種子用と肥料用に分割されるタイプのホッパーもある。トラクタの出力は180馬力以上が必要で、オプションには、クロスボード、ディスクハロー、シードパイプカバー、そして小型ホッパーが用意されている。

不耕起農法に関しては農業機械の専門誌『コネヴィステイ』が研究機関と協力して、2006年から試験を続けており、今後の5年間も継続する予定だ。研究者たちは粘土質の農地において、不耕起農法とプラウやカルチを使った慣行農法の実験区を設定し、収穫物の質と量を比較している。研究チームによると初期の不耕起農法の実験結果は、なかなか有望ということだ。



新しい不耕起播種機VM6000型が7月にフィンランド・オクラで開催された農業機械展示会で発表された。

Guidance products deliver topography maps  
オーストラリア

## 自動操舵システムの活用術



精密農業の専門誌『プレシジョン・アグリカルチャー』のティム・ニール氏によると、燃料と肥料、散布する薬剤のコストが高騰している影響で、自動操舵システムに興味を持つ農業経営者が増えている。

現在、オーストラリア国内では約5000台の高精度（RTK）ガイダンスシステムが稼働していると推測される。システム導入の動機はコスト削減だけでなく、踏圧を最小限にすることもあった。同氏によれば精密農業を導入する農家は、ガイダンスシステムを使って、自分の農地の地形図をつくることに新たな価値を見出している。「自動操舵で動いている時、システムは高精度の地形データを収集しています。専用ソフトを使えば、そのまま地形図が作れるだけでなく、排水性の分析をすることもできます。例えば圃場の排水性に問題がある場合、最適な排水路はどこに作るべきかもわかります」と話している。同誌はトリンプル社、オートファーム社、トプコン社、ジョンディア社、ライカ社、ビーライン社など、おもな精密農業システムの関連企業とタイプアップして情報を蓄積している。



精密農業の専門誌『プレシジョン・アグリカルチャー』のティム・ニール氏によると、ガイダンスシステムで圃場の地形図が作れるし、専用ソフトを使ってレベラーの施工マップも作れるという。



**Build your own kit**

米国

**買えないものは作る**



必要なモノが買えない時は、自分で作ってしまうのが一番だ。米国ノース・ダコタ州の農家ライル・カーペンター氏も、特別に頑丈でさまざまな物を牽引できるトレーラーを探し続けて、その結論に達した。

同氏とその共同経営者の息子の話では、市販されているトレーラーの種類は多いが、岩石や切り株、そして木材やその他の扱いにくい物を運搬する彼らの仕事に耐えられるモノは見当たらなかった。そこで自分で作ることを決めて使えそうな部品を探し回った結果、カーペンター親子はLPG（液化石油ガス）を輸送するタンクを切断することにした。

「我われが探したのは高速道路を長距離輸送できるLPG用タンクです。普通のLPGタンクは軟鋼で作られていますが、このLPG用タンクには厚さ3/8インチの高張力鋼が使われています。だから直径約1・5mの岩石を投げ込んでみてもキズ一つできません。つい最近も重さ約4tの石を積み込みましたが、へこみ一つできませんでしたが、へこみ一つで満足だ。」と自家製のトレーラーにご満悦だ。



ライル・カーペンター氏は自分の仕事に耐える頑丈なトレーラーを見つけれず、息子のリロイ氏と一緒に古いLPG用タンクから自家製のトレーラーを作った。もちろん交通局の規制には適応している。

**Feed mixers on the 'up' in South Africa**

南アフリカ

**飼料ミキサーの販売が好調**



現在、農業の機械化が急速に進んでいる南アフリカでは飼料ミキサーの市場が成長している。まだ規模は小さいが国内6メーカーの製品と多くの輸入品がしのぎを削って競争している。

場所はフリーステイト州ボタヴィル市、今年のナンボ・ハーベスト・デイの展示会場。アイルランドのリチャード・キーナン社で南アフリカ地区の営業部長を務めるリン・フォード氏の場合、この会場で15件の新規契約を成立させたうえに、40件以上の商談を進めていた。

同社はこの展示会場にメック・ファイバー・フィーダーを出品していた。フォード氏によれば、このシステムは西ヨーロッパ市場でも売れている。その理由は、飼料の配合率を最適化するサービスが、多くの農家に支持されているからだという。



キーナン社製のメック・ファイバー・フィーダー、2010年のナンボ・ハーベスト・デイの展示会場にて花形だった。